

令和5年度北信越高P連 新潟大会 記念講演

日 時：令和5年7月15日(土) 9:40~11:10

会 場：新潟県民会館大ホール

講 演：俳 優 高橋 克実 様

聞き手：アナウンサー 伊勢みずほ 様



大会2日目、俳優 高橋克実さんの記念講演が、新潟県民会館大ホールで開催されました。フリーアナウンサー伊勢みずほさんが、聞き手となり、お二人の明るく息の合った掛け合いのなかで、講演は進められました。高橋克実さんは、新潟県三条市の出身であり、1998年、TVドラマ「ショムニ」シリーズで注目を集め始め、現在は、舞台、映画、テレビドラマなど幅広く活動されています。

講演は、約1時間30分、新潟の食のおいしさに始まり、まず少年時代の話になりました。小学校時代からずっと、何かウケたい、人を笑わせたいという子だったという話から始まり、小学校の時から、テレビドラマ好きだったこと、昔は家族そろってテレビを見、その中の、青春ドラマや、刑事ドラマに憧れたことなど、話は弾みました。特に好きだったのが、刑事ドラマの「太陽にほえろ!」。あこがれの世界であったのですが、ただ、このころは、明確に役者になりたいとは思わなかったそうです。

次に、子育てについての話題になりました。伊勢さんが、「子どもとの関わり方についてお話を聞きたい。」と質問すると、子どもは小学校の5年生と2年生、子育ての苦労はあるが、その子のペースが大事、比較もしちゃダメ、人それぞれなんだと思う、その子には、何かいいところがある、とのことばが印象的でした。

続いて、俳優としての仕事の話となりました。俳優さんは、何かを表現して、その人の人生にちょっと何か、或いは少し別な方向に変えてくれたりすることがある。高橋さん自身は絶えずその繰り返しだったとのことですが、例えば、役者さんの本を読んで、この人にこういう影響を受けた、あるいは、自分はその人に会っていないこうはなっていない

など瞬間的に感じることもある。同じようなことは映画や音楽にもあるし、音楽の歌詞もそう。歌詞に救われたとか、この人もこう思っているんだとか、そういうことが仕事になっていることは、とても素晴らしいことなのではないか、と語ってくれました。

その後、伊勢さんが、「どういう思いで役者を続けているのか」と聞きました。憧れていた俳優と仕事をしている。続けていてよかったと今は感じていること、また伊勢さんが、役者として、「この高みにいきたいということはあるのか。」と聞くと、割と即答で、「ないです。」と答えられていたのは高橋さんらしいところだと思いました。関連して「今後チャレンジしたいこと」についてお聞きしたところ、よく、海外へ進出したいとか、ミュージカルをやりたいとかあるが、これも「ない」とのこと。自分は、来るもの(仕事)を断ったことがない、仕事のない時代が長かったので、来るものは拒まずであり、このままのスタイルでいいんだろうと思う。自分でこうやりたい、ああやりたいというものを選ばなかったからこそ、逆に多くの仲間にも恵まれ、番組もうまくいった。やりたいと思わなくても、依頼は多く来る、ラジオ、ドラマ、舞台など仕事の種類も多い。

最後に伊勢さんから、高橋さんについて、周りにはすばらしい仲間が多くいる、醸し出している魅力は多い、こんな風に生きられたら素敵だと思う、それは、周りの方との時間をすごく大切に、周りの人を、子どもの時からしあわせにしたいという思いでいるからこそ、周りの人や多くの人に、そのことが伝わっているのかと思います、ということばで締めくくっていただきました。

この後、質疑の時間もとっていただき、2人の保護者の方の質問にも丁寧に答えていただき講演は終了しました。

